

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 5 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を7月(終了)・11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることができる指定文化財について、連載しています。

今月は須弥寺と、その末寺にあった阿弥陀如来立像を紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



須弥寺

須弥寺は森地区にある、浄土宗西山派の寺院で、山号は円通山です。「須弥寺縁起」では、弘法大師空海が創建し、平安時代に石清水八幡宮(京都府八幡市)の神官・森宮内少輔公文が、石清水八幡宮から観音像を迎え、真言宗「石清水寺」を再建しました。

江戸時代には、清水寺から須弥寺になったとされていますが、「石清水八幡宮文書」では、保元3年(1158年)に宮寺領として、すでに須弥寺が記されています。また、平成9年の発掘調査により、奈良時代の瓦が出土したことから、縁起が伝える創建時期よりも古いことが明らかにになりました。

元亀年間(1570~1573年)には、三好氏・松永氏との戦乱に巻き込まれ、寺は燃えてしまいました。その後、天正年間(1573~1592年)に再興され、同時に真言宗から大念仏宗に改宗されました。

また、寛文11年(1671年)に当時の住職は、須弥寺を佐太来迎寺(守口市)の末寺とすることで寺院経営を安定させました。昭和17年に浄土宗西山派となり、現在に至っています。

市指定文化財

木造阿弥陀如来立像

木造阿弥陀如来立像は、江戸時代に須弥寺の末寺の一つであった常徳庵の本尊でしたが、明治の初めごろに廢寺となったため、その後は地元で大切に守られてきました。平成16年に市に寄贈され、現在は、教育文化会館で保管されています。

この仏像はやや小ぶりな半等身像で、手は来迎印を結び、左足をわずかに前へ踏み出すという、鎌倉時代以降に好んで造られた作風「安阿弥陀様」を基調としており、市内の中世における浄土教の展開を知ることができる資料といえます。



現在の須弥寺



奈良時代の瓦

豆知識

須弥寺と警固観音

石清水八幡宮から迎えた「石清水八幡宮警固・十一面観世音菩薩」は、貞観元年(859年)に宇佐(大分県)から八幡に八幡神を分霊したときに、警護されて来られた、という伝承を持つため、「警固観音」とも呼ばれています。

この観音像を祀るために森地区の人たちは、古来より須弥寺に集まり、観音講などのさまざまな行事を行ってきました。



十一面
観世音菩薩

